

Ⅱ 事業報告

1. 教職員の活性化

- (1) 2012年度の主な管理者就任は、小倉義明先生の聖学院長任期満了に伴い阿久戸光晴先生が聖学院長に就任し、副院長兼キリスト教センター長に山口 博先生が就任した。また、聖学院大学大学院では、政治政策研究科長に松原望先生、人間福祉学研究科長に窪寺俊之先生が就任し、聖学院大学では、政治経済学部長に標宣男先生、人文学部長に清水正之先生、人間福祉学部長に牛津信忠先生が就任した。聖学院中学校高等学校では、校長に戸邊治朗先生、副校長に清水広幸先生と角田秀明先生が就任し、女子聖学院中学校高等学校では、校長補佐に大塚明子先生と田部井道子先生、教頭に木村徹朗先生が就任した。さらに聖学院小学校校長兼聖学院大学附属みどり幼稚園長として村山順吉先生、聖学院幼稚園長に佐藤 慎先生が就任した。なお、聖学院大学附属みどり幼稚園では、主幹に相川由紀子先生が就任した。

さらに事務管理者として、学事局長に山本俊明職員、広報局長に山下研一職員が就任した。

- (2) 2012年度は、事務組織が次の趣旨により新体制になった。

① 方針の徹底と実行性ある事務組織務

事務を統括する事務総局を置き、管理局、学事局、広報局の3局構成として事務組織を一本化した。

② 広報部門の強化

広報企画部を広報局に昇格させ、聖学院の全ての学校の広報・募集を支援する体制にした。

③ 聖学院各校の連携を深めるために

学事局が各校の教学事務を統括する組織とし、教学事務組織を一本化した。各校事務の情報共有化や、相互協力による各校連携を更に深めるようにした。

④ 属性にとらわれない管理職の起用

問題対応力と機動性のある事務組織構築のために必要な人材を必要な部署に任用した。

⑤ 教員へのサポートの強化

事務各部署の役割を明確にし、更に教員の要請に対応できる体制とした。

- (3) 事務職員への教育研修としては、事務新体制で新規に課長に就任した管理職に対して、管理職の基本を学ぶ研修を行った。

2. 教育環境の整備

- (1) 主な改修工事、購入等（1千万円以上）

(千円)

聖学院中学校高等学校	中学棟屋上漏水対策改修工事	13,965
女子聖学院中学校高等学校	チャペル棟屋根防水対策改修工事	14,490
	自家発電機設置	28,758
聖学院幼稚園	新園舎建築	257,664

- (2) その他

聖学院大学

<GP>

テーマA、テーマB、就業力育成支援事業が2011年度で終了となり、2012年度は新たに始まった産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(以下、産業界ニーズ対応GP：実質的に就業力GPを引き継ぐ事業)。この事業は就業力GPに採択されていた各校を地域ごとに9つに分けて、そのグループごとの共同事業とする形を

とり、聖学院大学は新潟大学を幹事校とする「関越大学グループ」(17校)に属することになった。本学は①キャリアポートフォリオ構築による学生指導 ②資格を絡めた情報教育 ③インターンシップ、の3つの柱を立てて申請に参加し、2012年10月16日付で交付内定が出され事業を開始した。

補助金額：グループ総額 183,681 千円 うち聖学院大学 11,579 千円

＜科学研究費補助金＞(千円未満切り捨て)

① 代表者分（本学の教員が代表者の科研費）

16 件 直接経費 14,428 千円 間接経費 4,118 千円

② 分担分（他大学の教員が代表者の科研費）

7 件 直接経費 1,735 千円 間接経費 520 千円

合計 23 件 直接経費 16,163 千円 間接経費 4,638 千円

3. 聖学院各学校の主な事業

〔聖学院大学・聖学院大学大学院〕

(1) 環境基盤の整備

Eラーニングの本格導入に向けた試みが始まった。教材電子化委員会、教育 ICT ワーキンググループの発足といった組織的枠組みが構築されることで、全学的な方針としての推進力が生まれると共に、「Moodle」や、サイバー大学製「クラウドキャンパス」等、Eラーニングツールの利用環境準備を添えることで、利用ユーザの広がりを目論んでいる。2013 年度春学期の試行運用を経て、秋学期から本格導入の予定である。

(2) 国 際 連 携

日韓関係では、長老会神学大学校との共同研究・セミナー、東アジアの平和と民主主義シンポジウム（日韓中学術シンポジウム）を開催した。また、東日本大震災国際神学シンポジウム（アメリカのフラー神学校、国内他大学等との連携による）を開催した。

(3) 学生生徒・教職員等の活躍

① 天皇賜杯第 81 回日本学生陸上競技対校選手権大会男子三段跳び決勝 8 位入賞（日本インカレ初入賞）。第 91 回関東学生陸上競技対校選手権大会男子 2 部三段跳び決勝 3 位（銅メダル）。第 67 回埼玉県陸上競技選手権大会女子やり投げ決勝関東優勝（埼玉県新記録）。

② スキー部 ALPINA が第 16 回津南インラインスキー大会の男子アルペン、ルーキークラスにおいて優勝。

(4) そ の 他

① 学生にとって使いやすくすることを目的とし学内奨学金の見直しを行った。設定された奨学金は、経済支援を目的とした「ルーラ・ロング・コームズ記念奨学金」、学業奨励を目的とした「チャールズ・エリアス・ガルスト奨学金」、災害被災者のための「聖学院大学災害被災者修学支援奨学金」、短期海外研修参加者のための「女子聖学院短期大学記念国際交流奨学金」である。

② 地域貢献事業として、埼玉県の「元気な地域を創造する子ども大学推進事業」の一環として、地元の子ども大学あげお・いな・おけがわの学習プログラムに参画し、ネイティブ教員やアジア留学生との交流を通じた異文化体験など大学ならではの知的好奇心を刺激する講義を受講した。

③ 財団法人いきいき埼玉が実施している県民に質の高い生涯学習の機会を提供する大学連携講座「けんかつオープンカレッジ」の企画及び講師を派遣し「遅れている日本の精神保健福祉と私たちの暮らし～当事者の生き様から学ぶ～」をテーマに本学人間福祉学部准教授が講演した。

④ アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科では、3 名の博士学位（課程博士 2 名、論文博士 1 名）の授与を許可した。

〔聖学院大学附属みどり幼稚園〕

(1) 新たな教育事業への取り組み

「子育て支援センター わかば」を運営した。

(2) 教育研究の充実

遊具を充実（プータロ跡地への砂場増設、プレールーム内遊具の充実 他）した。

(3) 環境基盤の整備

放射線測定（空気中・園内各所の定点測定）を行い、安全な園であることを確認した。

(4) 人事の活性化

園長・主幹等の役職者入れ替わりにより、責任体制の充実を図った。

〔聖学院中学校高等学校〕

(1) 新たなる教育事業への取り組み

I C T化に向けて日々の授業で研究し試行錯誤している。中学2学年、理科実験室には電子黒板が設置された。

(2) 教育研究の充実

年間3回の研究授業を行っている。その他授業フォーラムを設定している。また、各教員が危機感を強めて日常の教育業務にあたっている。生徒本位の学校にすることを第一にしている。

(3) 環境基盤の整備

廊下ラウンジに学習テーブルを設置した。

(4) 国 際 連 携

① オーストラリア語学研修 アメリカホームステイ、短期留学の実施を検討した。

② タイ研修旅行などを通じて相手国との交流を図っている。

(5) 学生生徒・教職員等の活躍

E U本部の見学会。タイ研修パネルセッション。レゴロボットの世界大会参加。宇宙エレベーターの取り組み。文科省化学番組への指導要請に化学担当教諭が当たる。

(6) そ の 他

ホームページの刷新がなされている。生徒保護者から満足度の上がる事業等を考え遂行している。結果学習塾などの評価が高まったという感触を得ている。

〔女子聖学院中学校高等学校〕

(1) 新たなる教育事業への取り組み

英語教育の充実（高Ⅱ・Ⅲ クリエイティブ ライティング）および国際教育プログラムの拡充（英語キャンプ・短期留学生の受け入れ）を行った。

(2) 環境基盤の整備

防災時の設備・備品の拡充（自家発電機の設置・備蓄品の購入・防災マニュアル、map 作成等）およびグラウンドの照明器具を設置した。

(3) 学生生徒・教職員等の活躍

① ディベート部 全国大会（中学）3位/（高校）5位、第七回ヤマト運輸高校生経営セミナー準優勝、北区子どもかがやき顕彰 北区みらい賞

② チアリーディング部 JAPAN CUP2012 チアリーディング日本選手権大会 15位（準決勝進出）、第23回全日本高等学校チアリーディング選手権大会出場 決勝戦第10位、北区子どもかがやき顕彰 北区みらい賞、2012年度全国年間ランキング第6位

③ 吹奏楽部 「東京都高等学校吹奏楽コンクール」Aチーム金賞/Cチーム銀賞、「東京都中学校吹奏楽コンクール」Aチーム銀賞、都高等学校アンサンブルコンテスト（都高等学校吹奏楽連盟主催）サクソ4重奏（高Ⅱ・高Ⅰ・中3）金賞/・金管8重奏（高Ⅱ・高Ⅰ）金賞、2012TAMA アンサンブルフェスタ 高校の部・木管5重奏（高Ⅱ）優秀賞（70団体中2位）/洗足学園音楽大学賞金賞/金管8重奏（高Ⅰ、中3）銀賞、都中学校アンサンブルコンテスト（都中学校吹奏楽連盟主催）A部門 クラリネット8重奏金賞/B部門金管8重奏銀賞

- ④ バスケットボール部 東京都高体連女子バスケットボール夏季大会Cブロック 3位、C支部女子バスケットボール大会（高校）2位リーグ優勝
- ⑤ 個人 チアリーディング・ダンス世界大会 金メダル(アメリカ・フロリダ開催 USASF, IASF 主催)日本チーム代表選手として出場(高Ⅲ)、全国高等学校マーチングバンドポンポンバトワリング選抜大会 個人高校スポーツダンス部門 3位(高Ⅲ)、2012 DanceWorld Open Hiphop 部門 1位/Open Pom 部門 3位（高Ⅲ）、全国高等学校マーチングバンドポンポンバトワリング選抜大会個人高校スポーツダンス部門 2位(高Ⅰ)、2012 DanceWorld Senior Pom 部門 1位(高Ⅰ)、全日本歌留多協会杉並大会F級 3位(中Ⅰ)、前橋かるた大会D級準優勝(中Ⅰ)、チアダンス USA 大会 3位入賞(中Ⅱ)、JCDA 大会 4位入賞 (ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2012) (中Ⅱ)、越谷体育奨励賞受賞(中Ⅱ)、フラダンス フラ・ホオラウナ・アロハ グループケイキ部門 2位(高Ⅱ)、フラダンス ヘイヴァ・イ・マウイ ヴァヒネ部門 2位(高Ⅱ)、フラダンス ヘイヴァ・イ・ジャパン タマリイ・ヴァヒネ部門 3位(高Ⅱ)、第 21 回実用数学技能検定準 1 級 金賞グランプリ(高校Ⅲ)

(4) その他

メモリアルラウンジの用途を拡充（資料の展示だけでなく宣教師館のリビングルームとしても生徒たちに開放）した。

〔聖学院小学校〕

(1) 記念事業

3月15日に校舎とのお別れ会（在校生）および校舎とのさよならパーティ（卒業生）を行った。

(2) 新たな教育事業への取り組み

3、4年の宿泊行事「冬の学校」を見直し、スキー中心のプログラムからスノーシューを使つての雪中歩行、降雪地帯の人々の生活や動植物について学ぶなど、プログラムを変更した。場所も新潟県塩沢から長野県木島平に移した。

(3) 教育研究の充実

ワークショップ型授業についての校内研修会を、年3回実施した。

(4) 環境基盤の整備

新校舎建築に向けて学内建築委員会が組織され、新校舎プランのみならず、仮校舎や教育環境の変化に対する児童への対応を含めた協議を重ねている。

(5) 国際連携

7月23日から30日まで、5・6年希望者を対象としたオーストラリアホームステイを実施した。

(6) 学生生徒・教職員等の活躍

田村教諭の教育実践が朝日新聞3月23日の朝刊で紹介された。

〔聖学院幼稚園〕

(1) 記念事業

11月17日に創立100周年記念式典を女子聖学院チャペルで、祝賀会を椿山荘で行った。

(2) 新たな教育事業への取り組み

2013年2月より、預かり保育（月、火、木、金の17時まで）を開始した。

(3) 環境基盤の整備

新園舎を建築した。

(4) 人事の活性化

聖学院大学附属みどり幼稚園との間で人事交流（相川教諭がみどり幼稚園へ、本田教諭が聖学院幼稚園に異動）を行った。

〔聖学院アトランタ国際学校〕

(1) 新たな教育事業への取り組み

- ① 新たに漢字検定をセインツを試験会場として行った。
- ② 選択英語クラスで新しい試みを取り入れ、内容の充実を図った(英語の歌・劇・チェス等)。

(2) 教育研究の充実

- ① 特別に支援が必要な場合、教師間の共通認識を大切にし、又外部カウンセラーとのコミュニケーションを密にするよう努力している。
- ② 現地の私立校姉妹校との交流プログラムの継続・発展。
- ③ 日本語を学ぶオグルソープ大学生との交流：小学生日本語算数授業の参観と体験。中学準備コースでは、昨年までのパワーポイントの発表に加え、パブリッシャーを用いて、学校新聞を発行し、また本を台本化し、人形劇を幼稚部のために行う授業を取り入れた。
- ④ 夏の個人研究を教職員全員に発表するプログラムの充実に取り組んでいる。
- ⑤ 中学準備コースでは、昨年までのパワーポイントの発表に加え、パブリッシャーを用いて、学校新聞を発行し、また本を台本化し、人形劇を幼稚部のために行う授業を取り入れた。

(3) 環境基盤の整備

- ① 第二校舎二階が完成した。
- ② 日本語図書活用のため、図書室の移動および整備をした。

(4) 国際連携

- ① 日本の聖学院小学校とクリスマスカードの交換をした。
- ② コンゴの病院の小児科患者に手紙とプレゼントを送付(サービスマーケティングの一環)した。

(5) 学生生徒・教職員等の活躍

- ① 小林一茶俳句コンクール入選。英検 2 - 4 級合格。
- ② 今年も、アメリカ全国標準テスト、アイオワテスト(主要四教科)でバイリンガル児童のみならず、日本から来た児童のほとんどが学年平均を超える好成績を収めた。

〔法人〕

(1) ASF 総会・推進委員会

聖学院小学校講堂にて、第 26 回 ASF 総会・推進委員会が開催された。稲永 修 推進委員長が名誉推進委員長に就任し、堀 甲子推進副委員長を推進委員長に迎えた。さらに都築宗政推進副委員長に加え、新たに西田善夫 聖学院幼稚園同窓会長を推進副委員長として迎え推進委員体制の強化がはかられた。

(2) 駒込別館・旧院長宅の売却

駒込別館（A/B/C 棟）および旧院長住宅の売却をし、2013 年 1 月 25 日に引渡しをした。

(3) 衛星電話導入

駒込（新館）とさいたま・上尾キャンパスを結ぶ衛星電話を導入したことにより、非常時にも法人内各校と情報のやり取りが可能となった。